

株式会社 LIXILグループ

株 主 通 信

2020年9月中間ご報告

2020年4月1日～2020年9月30日



目次

社長メッセージ	02	株主優待のお知らせ	15
持続的な成長に向けた取り組み	05	株主さまアンケート結果	16
LIXILの商品	07	株式の状況	17
LIXILのサステナビリティ	09	会社概要	18
営業報告	11	報告書 発行のお知らせ	裏表紙
セグメント情報	12		

LINK TO GOOD LIVING



表紙: 窓/インプラス for Renovation
P01: 左 タッチレス水栓/ナビッシュ(INAX) 上段左より: 宅配ボックス/宅配ボックスKT(LIXIL)、窓/インプラス for Renovation(TOSTEM)、バスルーム/アライズ(LIXIL)
下段左より: トイレ/サティス(INAX)、カーポート/カーポートSC(LIXIL)

社長メッセージ



取締役 代表執行役社長 兼 CEO

瀬戸欣哉

より機動的で強い組織の 実現に向けて、変革を加速します

上期の決算概要と通期業績予想

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、上期累計では減収減益となりましたが、第2四半期からは、海外市場は堅調に推移し、国内市場も回復の兆しが見えています。当社を取り巻く事業環境は大きく変化していますが、これまで推進してきた変革の取り組みによって、ニューノーマルにおける新たなニーズにも機動的な対応

が可能となりました。

当上期の売上収益は、前年同期比13%減の6,605億円となりました。国内では、2020年1月~6月における新設住宅着工戸数の減少や、新型コロナウイルスの影響による消費需要の減退、前年の消費税後の需要減を受け、全ての国内事業において減収となりました。その一方で、ニューノーマル下の新たな消費者ニーズに

社長メッセージ

第2四半期累計(上期)の実績および通期の業績予想

(単位:億円)

	第2四半期累計(上期)実績			通期実績・予想		
	20年3月期 上期実績	21年3月期 上期実績	前年同期比	20年3月期 実績	21年3月期 予想	前期比
継続事業に係る売上収益	7,595	6,605	△13%	15,144	13,500	△11%
継続事業に係る事業利益	340	154	△55%	523	400	△24%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	231	109	△53%	125	190	52%

※この上期は業績予想を公表していませんでした。
ペルマスティリーザ社および(株)LIXILビバの売却決定に伴い、両社に関連して発生する損益の全てを「非継続事業」に分類しています。比較のため、20年3月期の上期および通期実績も同様に組替を行い、売上収益と事業利益について、公表済みの数字を遡及修正しています。

応える製品への需要が拡大し、タッチレス水栓や宅配ボックスの売上は、前年同期比50%増となるなど、国内市場の売上は下げ止まりつつあります。

海外事業は全地域で減収となった一方で、6月から堅調な回復を見せており、特に米国と欧州・中東・アフリカ地域での小売向けとeコマースが伸びています。

事業利益は、前年同期比186億円減となる154億円となりました。欧米を中心とした海外需要の回復と販管費の抑制により、第1四半期の△26億

円から黒字に転換しました。売上収益が13%減に対し、事業利益率が2ポイント減に抑えられたのは、かなり善戦できたのではないかと考えています。これは今まで進めてきた組織の簡素化や、ハウジングテクノロジー事業での生産の効率化が貢献したと考えています。また、販管費の抑制についてはコロナ禍で出張や販促イベント等が制限されたこともありますが、コスト削減と生産性向上に継続的に取り組んでいきます。

通期の業績予想は上の表のとおり

です。(株)LIXILビバの株式譲渡で見込まれる譲渡益、ならびに下期に行う構造改革費用の見込額が含まれています。

新型コロナウイルスへの対応

当社では中期計画の戦略の柱の一つに、「魅力ある差別化された製品の開発」を掲げていますが、人びとが自宅で過ごす時間が多くなったことで、先進的なテクノロジーやエンドユーザーの視点に立った意味のある製品デザインなど、当社の強みについて実

感していただける機会が増えたのではないかと思います。

コロナの感染拡大は、LIXILのビジネスに大きく2つの変化をもたらしました。まず、需要面では、衛生面や健康面に配慮した製品により大きな注目が集まっています。日本をはじめ多くの国や地域では、在宅勤務が増えて通勤時間が減ったことにより、多くの人が家の価値に気づきはじめました。住宅設備や建材を選ぶ際にも、健康面に配慮し、デザイン性の高いものが求められるようになっていきます。

次に大きく変化したのが、仕事の進め方や商習慣のデジタル化です。ウェブ会議を使って、時間を節約しつつ、デザイン案や設計図を見せたり、バーチャルで試作品を共有したりすることができるようになり、こうした変化はお客さまにも好意的に受け入れられています。

さらに、LIXILのショールームでは、コロナ禍で本格開始したオンライン接客サービスを拡充しました。新たに20時までのナイトオンライン接客サービスを始め、お客さまの利便性をさらに高めています。

組織・事業構造の簡素化

当社が目指すのは、組織や事業構造を簡素化することで、より機動的で強い企業となることです。国内では、従来の支社・支店・営業所の構造を見直し、支店を廃止するなど、営業組織内の階層を減らし、効率化を図りました。さらに、経営幹部の役割も明確化し、人数の削減を行いました。私が入社した2016年当時、海外を含め150人ほどいた経営幹部を徐々に減らし、2020年7月には24名にしました。

さらに、ビル事業を営むペルマスティリーザ社の売却(9月)、ホームセンター事業を展開する(株)LIXILビバの売却(11月)により、グループ構造の簡素化を図りました。これは、水まわりや住宅建材という当社の強みが発揮できる基幹事業への注力を進め、成長分野に投資を行い、ガバナンスを強化するための重要なステップだと考えています。

国内事業の活性化に向けて

LIXILの持続的な成長を実現するには、特に、国内事業の変革が重要になります。国内事業は、LIXILグループ

全体の売上の約7割を占めるだけでなく、国内外におけるイノベーションを推進する研究開発の拠点でもあり、重要な役割を担っています。昨年秋から、国内事業を活性化するための包括的な人事戦略「変わらないと、LIXIL」を導入し、新しい働き方への転換や実力主義の徹底をはじめとする、様々な取り組みを進めてきました。一連の施策の詳細は、P5-6「持続的な成長に向けた取り組み」をご参照ください。

株主の皆さまへ

この株主通信がお手元に届いて間もなく、12月1日には、株式会社LIXILグループは子会社の株式会社LIXILと合併し、商号を「株式会社LIXIL」に変更します。この合併により、持株会社と事業会社の二重構造を解消してグループ経営体制が簡素化されるため、意思決定の迅速化や、経営の透明性を高めることができます。

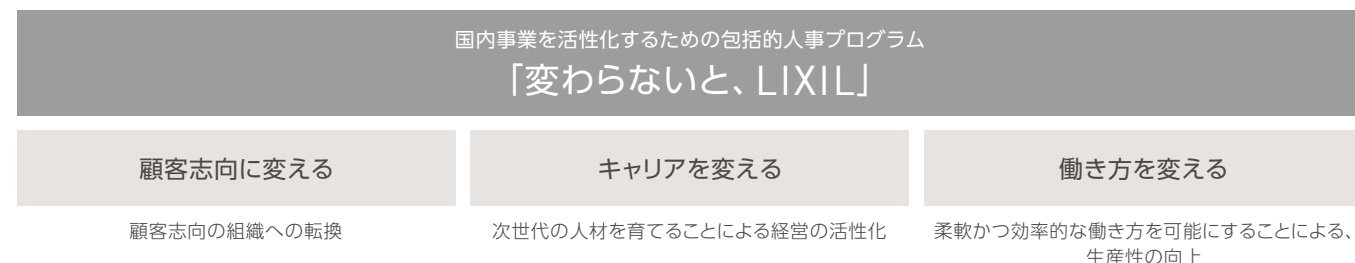
株主の皆さまには、変革を続けるLIXILに、さらなるご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

持続的な成長に向けた取り組み

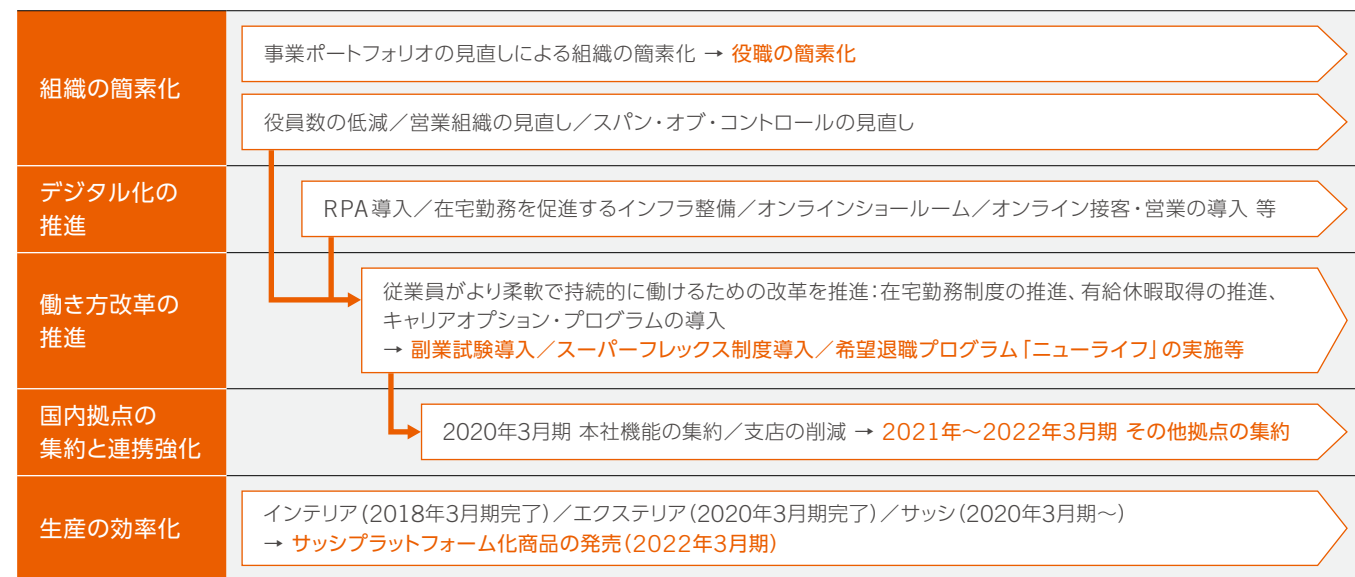
国内事業において、顧客志向を徹底し、実力主義の文化を醸成するとともに、組織としての活力を向上させるため、包括的な人事戦略「変わらないと、LIXIL」を昨年秋に開始しました。今期はその取り組みを加速させています。

持続的な成長に向けた変革の推進を加速

- 急速に大きく変化する事業環境において、外部環境の変化に影響を受けにくい事業構造への転換が必要
- 事業構造を簡素化、実力主義を徹底し、従業員中心の文化を備えたアジャイル(機動的)な組織を構築
- LIXILの変革のために、国内事業が変革を主導



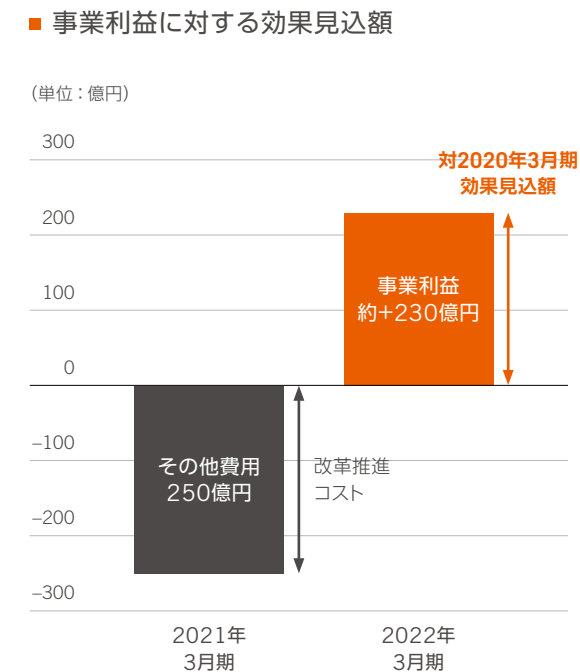
生産性の向上に向けた取り組み



主な施策(2021年3月期)

- 組織の簡素化
役職の簡素化
- デジタル化による取り組みの加速
- 働き方改革の推進加速
副業試験導入、スーパーフレックス制度導入、生産性向上による残業時間の削減、拠点の集約(2021年~2022年3月期)、希望退職プログラム「ニューライフ」の実施
- 国内拠点の集約と連携強化
- ハウジング事業の生産の効率化(生産改革)
サッシプラットフォーム化商品の発売(2022年3月期)

改革推進コストと効果見込額



組織改革・働き方改革を含めた生産性改善は2022年3月期以降も継続



さまざまな商品・サービスを通じて ニューノーマルに向けたご提案をします

“非接触”で安心・快適な暮らしをサポート

INAXタッチレス水栓

おうち時間を快適・健康・安心・安全に過ごすための重要なキーワードの一つとなっているのが“非接触”です。衛生に関する関心の高まりを背景に、家庭内での“非接触”のニーズに応えるタッチレス水栓の需要が世界中で増加しており、LIXILのINAXブランドでは、タッチレス水栓の国内売上が前年同期比50%増*となっています。当社は世界150カ国以上で水栓事業を展開しており、さらなる事業の成長に注力しています。

*2020年3月期、2021年3月期4月～9月の6ヵ月実績比



ナビッシュ ハンズフリー水栓

誰もが安心して簡単に使える玄関ドア

電動オープナーシステム「DOAC」新発売

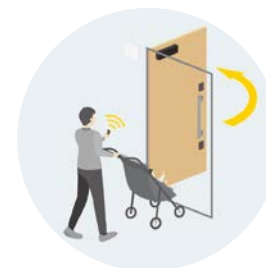
LIXILは“家族みんなが、笑顔で出かけたいくなる毎日”を目指し、今ある玄関ドアに簡単に後付け*できて、リモコンひとつで鍵の施錠・解錠はもちろん自動開閉まで可能にする玄関ドア用電動オープナーシステム「DOAC(ドアック)」を全国で発売しました。「DOAC」は、ハウジングテクノロジー事業が2019年4月に発足した新規事業部門ビジネスインキュベーションセンターによる第1弾商品です。車いすユーザーの誰の手も借りることのない外出、ベビーカーや重たい荷物を持った時の楽々開閉、さらには感染症対策として非接触に注目が集まる中、タッチレス操作を実現しました。

*独自開発のワイヤレスシステムによって、ドアや鍵はそのまま使える後付け工法を実現。特許出願済み。

リモコンのボタンひとつで
鍵の施錠・解錠から自動開閉まで可能に



車いすやベビーカーを使う時は
リモコン操作の自動開閉



リモコンを持っていなくても
オートアシストでらくらく

「DOAC」スペシャルサイト

 <https://www.lixil.co.jp/lineup/entrance/doac>

玄関ドア用電動オープナーシステム

DOAC



LIXILは事業活動を通じて 社会課題の解決に貢献します

コーポレート・レスポンスビリティへの考え方

LIXILは「世界中の誰もが願う豊かで快適な住まい」の実現を目指しており、コーポレート・レスポンスビリティ(CR)の取り組みは、重要な役割を果たしています。現在、世界150ヵ国で、毎日10億にのぼる人々がLIXILの製品を利用しています。製品やサービスをはじめ、技術、ノウハウ、知財、人材、人脈、情報、資金など、LIXILの資源を活かし、事業活動を通じ社会課題の解決やSDGsの目標達成に貢献することは私たちの使命です。



3つの優先取り組み分野と関連するSDGs目標

“すべての人に衛生を”
**グローバルな
衛生課題の解決**



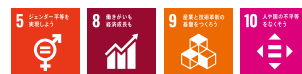
人びと、特に女性や女兒が、安全な衛生施設を利用できるようにすると同時に子どもにとって危険な病気感染を防ぎます。

“CO₂ゼロと循環型の暮らしを”
**水の保全と
環境保護**



調達から生産、流通、製品の使用・廃棄やサービスの利用に至るまで、すべてのプロセスにおいて、水、エネルギー、およびその他の天然資源の保全に努めます。

“すべての人に働きがいを”
“すべての人により製品を”
多様性の尊重



多様な従業員の英知や視点を活かし、成長とイノベーションの原動力とします。製品やサービスなどを通じて、年齢、性別、障がいの有無を問わず、すべての人びとの生活の質の向上に貢献します。



新しい手洗いソリューションを届けたい

「SATO Tap」を開発

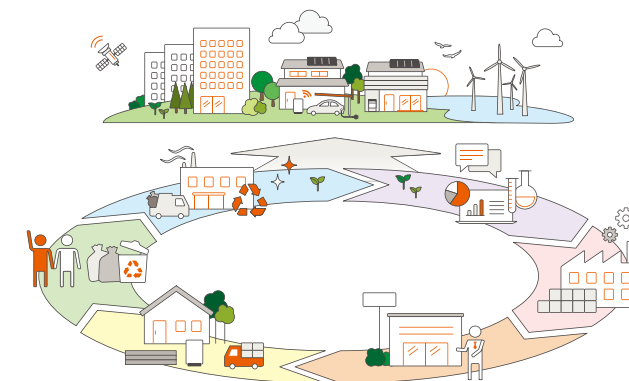
新型コロナウイルスの感染拡大を受け、水道設備のない家庭や公共施設での手洗いを可能にする低価格な開発途上国向けの商品「SATO Tap」を開発しました。水が貴重な場所での使用を想定し、手を洗うのに十分な水量を確保しつつ、一度に出る水を抑えた節水設計を実現しています。また、シンプルな構造で、直接手で触れずに簡単に操作することができるため、誰でも衛生的に手が洗えます。LIXILは多くの人びとの健康を守ることができるよう、「SATO Tap」の迅速な提供を通じて、様々な感染症の予防に有効な手洗いを普及させ、衛生習慣の改善に貢献します。



製品設計や素材のイノベーションで循環型経済の実現に貢献

LIXILプラスチック行動宣言

資源循環型経済の実現に貢献するため、「LIXILプラスチック行動宣言」を策定しました。プラスチックは加工がしやすく耐久性に優れているため、製品素材やパッケージに使われる機会の多い資源ですが、製造過程で発生するCO₂や廃棄による環境汚染が問題となっています。今後、世界中にある全てのLIXILグループの工場・事業所が「LIXILプラスチック宣言」に基づき、事業プロセスや製品・サービスを見直し、使い捨てプラスチックの使用量削減やリサイクルはもとより、再生可能な素材の研究や環境負荷を低減する製品のイノベーションを加速させていきます。

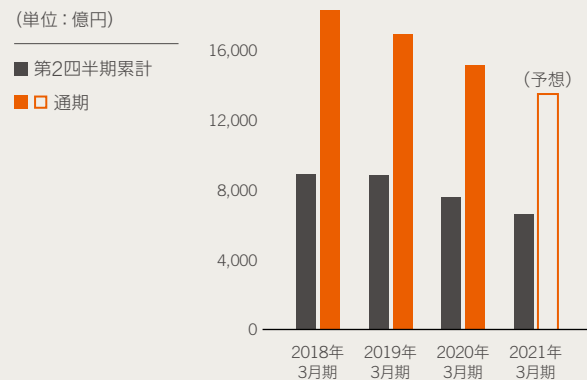


主な経営指数の推移(連結、国際会計基準)

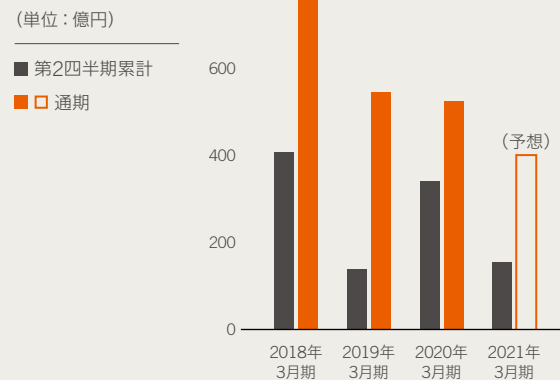
	当第2四半期 累計期間 自2020年4月 1日 至2020年9月30日	前第2四半期 累計期間 自2019年4月 1日 至2019年9月30日	前期 自2019年4月 1日 至2020年3月31日
継続事業に係る売上収益(億円)	6,605	7,595	15,144
継続事業に係る事業利益*(億円)	154	340	523
継続事業に係る営業利益(億円)	120	336	320
親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益(億円)	109	231	125
資本合計(億円)	5,440	5,620	5,351
資産合計(億円)	21,336	21,173	20,915
営業活動によるキャッシュ・フロー(億円)	644	603	1,577
投資活動によるキャッシュ・フロー(億円)	△860	△75	△413
財務活動によるキャッシュ・フロー(億円)	777	△940	△1,533
現金及び現金同等物の四半期(当期)末残高(億円)	1,500	1,004	959
親会社所有者帰属持分比率(%)	23.8	24.9	24.0
親会社所有者帰属持分当期利益率[ROE](%)	—	—	2.4
基本的1株当たり四半期(当期)利益[EPS](円)	37.47	79.75	43.15
1株当たり親会社所有者帰属持分[BPS](円)	1,753.13	1,818.35	1,730.99
1株当たり四半期(年間)配当金(円)	35	35	70

*日本会計基準における「営業利益」と同等、事業利益=売上収益-売上原価-販管費

売上収益の推移



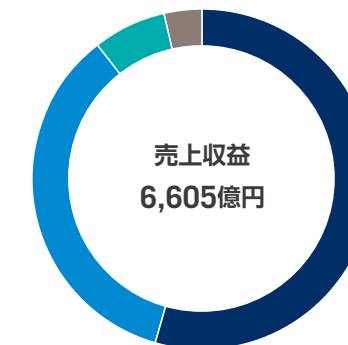
事業利益の推移



セグメント別の営業状況

	当第2四半期 累計期間(上期) (億円)	前第2四半期 累計期間(上期) (億円)	前年 同期比 (%)
売上収益	6,605	7,595	△13.0
ウォーターテクノロジー事業	3,656	4,108	△11.0
ハウジングテクノロジー事業	2,356	2,791	△15.6
ビルディングテクノロジー事業	463	544	△14.9
住宅・サービス事業等	229	268	△14.5
(調整額)	△99	△116	—
事業利益	154	340	△54.8
ウォーターテクノロジー事業	199	333	△40.4
ハウジングテクノロジー事業	136	182	△25.4
ビルディングテクノロジー事業	4	7	△42.2
住宅・サービス事業等	10	18	△44.4
(調整額)	△195	△200	—

売上収益内訳(当上期)



ウォーターテクノロジー事業	54.6%
ハウジングテクノロジー事業	35.1%
ビルディングテクノロジー事業	6.9%
住宅・サービス事業等	3.4%

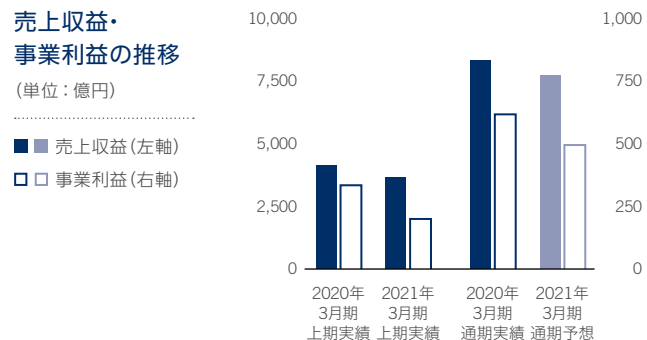
*ペルマスティリーザ社および(株)LIXILビバの売却決定に伴い、両社に関連して発生する損益の全てを「非継続事業」に分類しています。比較のため、2020年3月期の上期および通期実績も同様に組替を行い、売上収益・事業利益・営業利益について、公表済みの数字を遡及修正しています。また、(株)LIXILビバを非継続事業に分類したことに伴い、流通・小売り事業は継続事業ではなくなりました。

セグメント情報

ウォーターテクノロジー事業



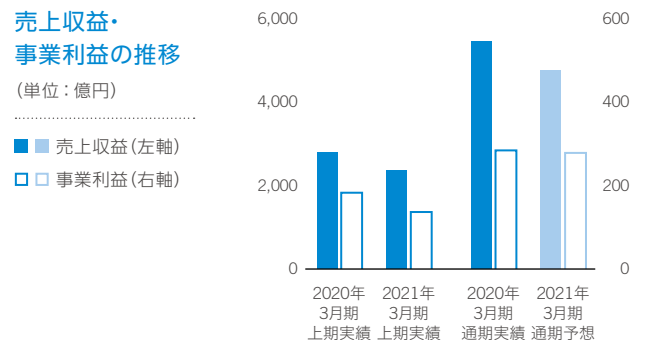
海外事業は新型コロナウイルス感染症の影響により減収ながら、欧米の売上は6月以降回復しています。日本事業はコロナ影響に加えて昨年の消費増税後の反動減がありました。日本・海外全体で水栓金具の好調が続いています。当事業の売上収益は11.0%減収の3,656億円、販管費削減に努めましたが、事業利益は40.4%減益の199億円となりました。(写真:グローエのバスルーム[ESSENCE CERAMICS COLLECTION])



ハウジングテクノロジー事業



国内における需要環境の悪化により、売上収益は15.6%減収の2,356億円となるも、販管費抑制や商品プラットフォーム化の進捗等による生産効率改善により、外部環境は厳しくも事業利益は25.4%減益の136億円となりました。“ニューノーマル”への対応および近年の日本国内における台風の大型化・被害の深刻化を背景として、宅配ボックス(写真)や玄関用収納網戸、リフォーム用シャッターなどの商品の需要が伸びています。

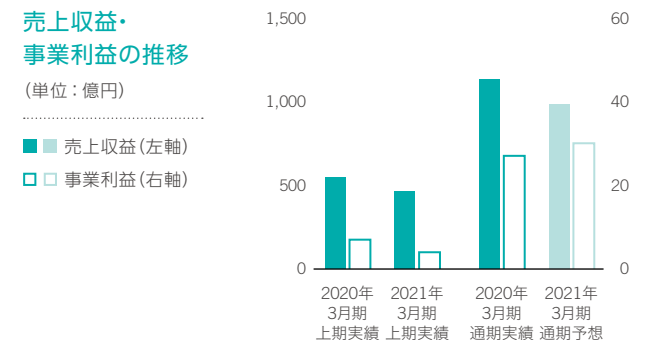


ビルディングテクノロジー事業



LIXIL

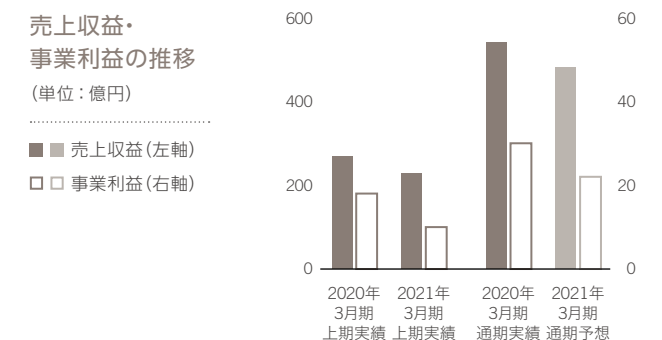
ペルマスティリーザ社の売却を5月に決定(9月に売却)したことから、同社およびその子会社の事業を非継続事業としたため、当事業は国内事業のみとなりました。当上期は東京オリンピック・パラリンピック向けの建築需要が収束したことから、売上収益は14.9%減収の463億円、事業利益は42.2%減益の4億円となりました。(写真: 自社カーテンウォールを使用して昨年完成したLIXIL本社ビルの新棟「HOSHII」)



住宅・サービス事業等



当上期は、引き続き重点施策であるリフォーム関連事業などの非新築領域に注力し、また、販管費の抑制に努めました。しかしながら前年上期に消費増税前の新築の駆け込み需要があり、その反動で売上収益は14.5%減収の229億円、事業利益は44.4%減益の10億円となりました。(写真: (株)LIXIL 住宅研究所・GLホーム「ウッズヒル アーリーアメリカン」)



株主優待廃止のお知らせ

当社では、株主の皆さまへの公平な利益還元のある方という観点から慎重に検討を重ね、また株主優待制度の利用者数、利用率にも鑑みて、株主優待制度を廃止させていただくことを決定しました。本年9月末の株主さまに対しての株主優待の発行はありませんので、何卒ご了承ください。

今後も株主の皆さまへの利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値の向上に取り組んでいきますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月30日に権利確定し、同年11月にご案内書類をご送付した株主優待について、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、お申込期限を2021年3月31日まで延長しています。

■ リフォーム株主優待：「リフォーム株主優待申込書」の封筒面において、料金受取人郵便の「差出有効期間」が2020年10月31日までとなっています。大変に恐れ入りますが、「リフォーム株主優待申込書」に必要な書類を同封の上、定形外郵便料金相当の切手を貼って投函をお願い申し上げます。

対象となるリフォーム工事は、株主優待対象商品を使用し、2021年3月末時点で工事が完了して請求書が発行されたものとなります。

■ 生活サービス株主優待：2021年3月31日までに、お電話でお申込ください。

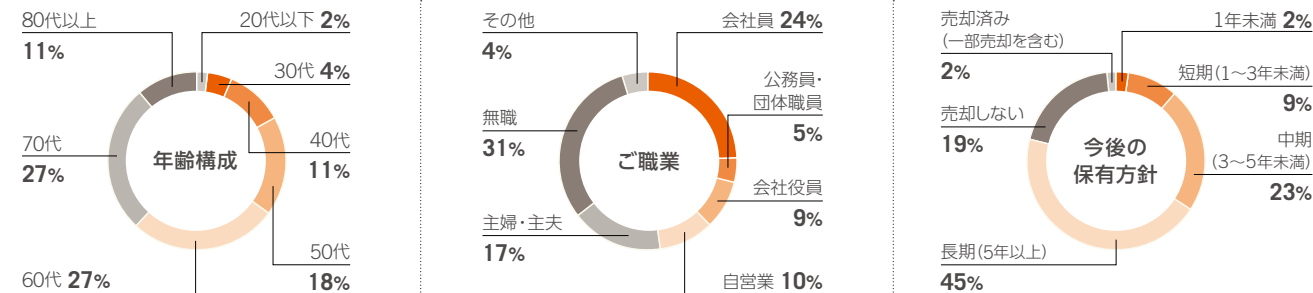


株主優待の詳細は昨年11月末にお送りした「株主優待制度ご利用ガイド2019-20」をご覧ください。今回「ご利用ガイド」「申込書」は同封しておりません。

なお、これらの書類の再発行は行っておりません。何卒ご了承ください。

7月に実施した株主さまアンケートでは、返信数21,871通、回答率37.9%と非常に多くの株主さまからご回答と貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。ご回答の集計結果の一部をご報告します。

1 ご回答者について



2 株主さまからのご意見・ご要望の一部をご紹介します

- この度のコロナショックは、今までの住まいを見なおす、よい機会になったのではないのでしょうか。自宅にこもると不慣れた点が目立ち改善したくなる。これが貴社の受注につながる事を願っています。
- 早く財務体質を改善して将来に向けて成長性をアップして欲しいです！そして、配当や株主還元の向上を期待しています。
- 借入金の圧縮、事業利益の伸長、不採算事業からの撤退、この3本柱に力をそそいで下さい。そして新興国対応の簡易トイレなど、社会に必要とされる商品の開発を広めて下さい。
- 初めて株主総会をライブで拝見致しました。今後も続けて下さい。

3 株主さまからの質問にお答えします

Q. 取締役9人のうち、社外取締役が6人は、多いのでは？

A. 当社では、全取締役より取締役会の構成に関する実効性評価や意見集約等の公正なプロセスを踏み、経営執行のスピードを阻害することなく、ガバナンス運営や経営執行を高い客観性、透明性をもって監督することができる取締役会の構成として、社内取締役3名、社外取締役6名とする判断を行いました。その結果、今期、自由闊達に議論できる建設的な取締役会の運営が実現できています。

今回も多くのご意見や励ましのお言葉、製品のご愛用の声をいただき、誠にありがとうございます。これらを経営に活かしてまいります。

株式の状況 (2020年9月30日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式23,217,907株を除く)	290,101,252 株
株主の総数	55,119 名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	20,898*	7.20%
(株)日本カストディ銀行(信託口)	12,098*	4.17%
野村信託銀行(株)(信託口)	7,746*	2.67%
LIXIL従業員持株会	7,678	2.65%
第一生命保険(株)	6,561	2.26%
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04	6,304	2.17%
(株)日本カストディ銀行(信託口5)	6,084*	2.10%
JP MORGAN CHASE BANK 385632	5,776	1.99%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS	5,430	1.87%
BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND	4,632	1.60%

(注) 1. 上記の他に当社は自己株式23,217千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
2. ※は全て信託業務に係るものです。

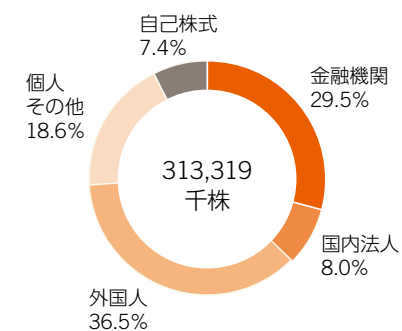
単元株未満株式(100株未満の株式)をお持ちの株主さまへお知らせ

100株未満の株式をお持ちの株主さまが、株式を買い増して単元株にする、または株式を売却する際のお手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行(連絡先:0120-232-711)にお問い合わせください。

免責事項

この株主通信には、(株)LIXILグループの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績は様々な重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

所有者別分布状況



金融機関	92,257千株
国内法人	25,060千株
外国人	114,458千株
個人その他	58,324千株
自己株式	23,217千株
合計	313,319千株

会社概要 (2020年12月1日現在、同日付で(株)LIXILグループが(株)LIXILを吸収合併し、商号を(株)LIXILに変更)

会社概要

社名	株式会社LIXIL
英文社名	LIXIL Corporation
設立年月日	1949(昭和24)年9月19日
本店	〒136-8535 東京都江東区大島二丁目1番1号
資本金	68,418百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結 55,613名 (2020年9月30日現在)
主な事業内容	住宅およびビルの建材・設備機器の製造・販売、その他住宅に付帯する事業およびその関連サービス業

執行役

代表執行役社長	瀬戸 欣哉
代表執行役副社長	松本 佐千夫
執行役専務	ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
執行役専務	金澤 祐悟
執行役専務	ビジョイ・モハン
執行役専務	吉田 聡
執行役専務	大西 博之
執行役専務	君嶋 祥子

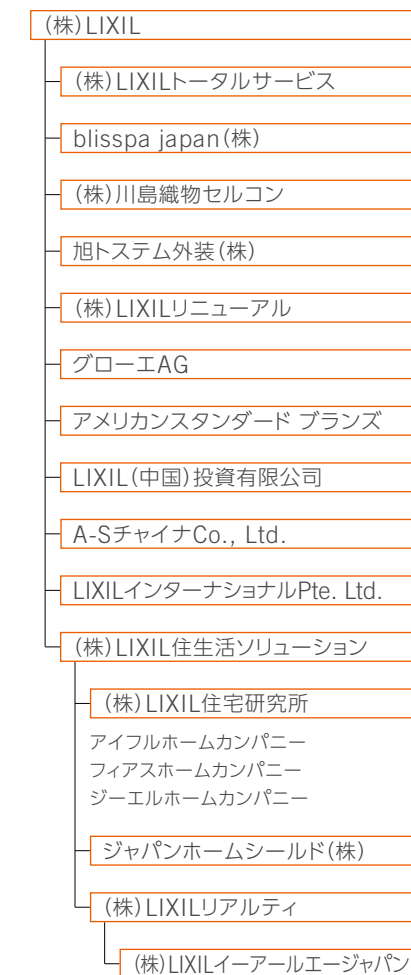
委員会構成

<指名委員会>	委員長	西浦 裕二
	委員	鬼丸 かおる
	委員	濱口 大輔
	委員	松崎 正年
<監査委員会>	委員長	鈴木 輝夫
	委員	内堀 民雄
	委員	鬼丸 かおる
<報酬委員会>	委員長	濱口 大輔
	委員	内堀 民雄
	委員	西浦 裕二
<ガバナンス委員会>	委員長	鬼丸 かおる
	委員	内堀 民雄
	委員	鈴木 輝夫
	委員	西浦 裕二
	委員	濱口 大輔
	委員	松崎 正年

取締役

取締役	瀬戸 欣哉
取締役	松本 佐千夫
取締役	ファ・ジン・ソン・モンテサーノ
社外取締役	内堀 民雄
社外取締役	鬼丸 かおる
社外取締役	鈴木 輝夫
社外取締役	西浦 裕二
社外取締役	濱口 大輔
社外取締役	松崎 正年

主なグループ会社




報告書 発行のお知らせ

ウェブサイトに掲載している下記デジタル版の報告書では、より詳細な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



統合報告書 2020 (旧 アニュアルレポート)

 https://ssl4.eir-parts.net/doc/5938/ir_material_for_fiscal_ym26/85382/00.pdf



データブック



コーポレート・レスポンスイビリティ報告 2020

 https://www.lixil.com/jp/sustainability/cr_library/pdf/LIXIL_CR2020_ja.pdf

https://www.lixil.com/jp/sustainability/cr_library/pdf/LIXIL_CR2020_databook_ja.pdf

お問い合わせ先

株式会社LIXILグループ

■ 三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711 ■ LIXILグループ：03-3638-8111

本誌の内容についてのお問い合わせ

■ LIXILグループ：IR室 03-6706-7001

株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。商品により電話番号が異なりますのでご注意ください。

受付時間 平日 9:00~18:00、土日祝日 9:00~17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

※新型コロナウイルス感染症の対策のため、お電話でお待ちいただいたり、回答にお時間をいただく場合がございます。


■ トイレ、化粧台、浴室商品、タイル商品

 0120-179-400

■ キッチン商品

 0120-190-521

■ サッシ、ドア、エクステリア

 0120-126-001

株式会社 LIXILグループ

本店：東京都江東区大島二丁目1番1号

ホームページ：<https://www.lixil.com/jp/>